

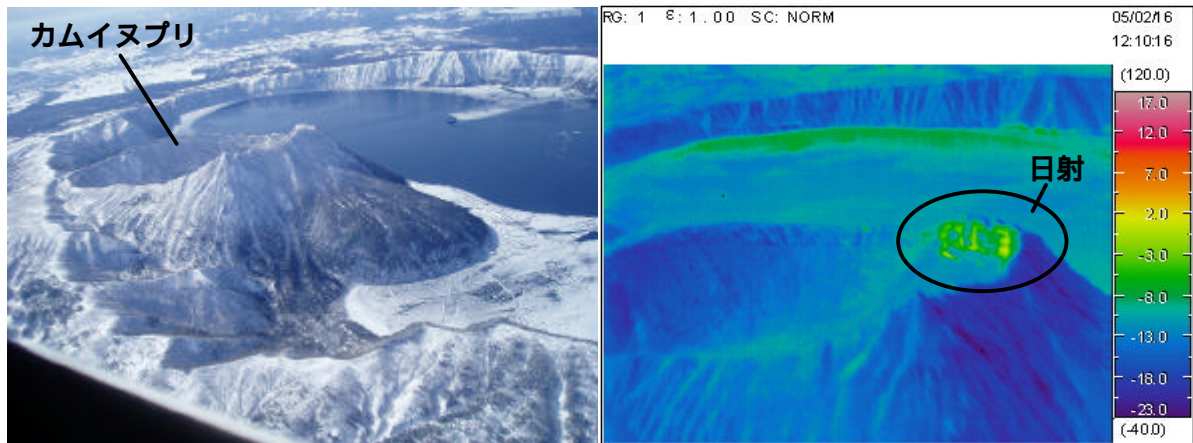
摩周

1 概況

上空からの観測では、噴気や地熱は認められませんでした。

2 上空からの観測結果

2 月 16 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、これまで同様、噴気や地熱域は認められませんでした。



左：北東側上空から撮影した摩周、手前はカムイヌプリ

右：東側上空から赤外熱映像装置により測定したカムイヌプリの温度分布

注) 山頂火口北側火口壁の高温部分は日射によると考えられます

参 考

摩周火山では、約 10000 年前と約 8000 年前に噴火があり、軽石や火山灰を噴出しました。約 7000 年前には、大規模な噴火が起こり、現在、摩周湖となっているカルデラ（摩周カルデラ）を形成しました。3000 年あまりの休止期の後、約 3500～1500 年前の間に 3 回、軽石や火山灰を噴出する活動があり、カルデラの南東壁上で新しくカムイヌプリが生成しました。カムイヌプリでは、約 1000 年前に大きなプリニー式噴火が起こり、山頂に直径 1km の火口が形成されました。

最近では 2003 年 2 月と 6 月にカルデラ内を震源とする地震が一時的にまとまって発生しました（有感地震 4 回、最大 M3.6）が、このときにも噴気や地熱活動は認められていません。